発達障害とは
ー療育と親支援の必要性ー

茨城キリスト教大学　看護学部
小児看護専門看護師
海野　潔美

本日の内容

1. 発達障害とは何か？

2. 発達障害のある子どもの早期療育とは？

3. 発達障害のある子どもの親支援とは？
   ペアレント・トレーニング
   （応用行動分析に基づいた）

1.発達障害とは何か？

発達障害の定義

「発達障害」とは、

「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの」

発達障害者支援法（平成16年12月制定）

（平成28年6月一部改正）

言葉の定義

- 「発達障害者」とは、発達障害がある者であって発達障害及び社会的障壁により日常生活又は社会生活に制限を受けるものをいい、「発達障害児」とは、発達障害者のうち十八歳未満のものをいう。
- 「社会的障壁」とは、発達障害がある者にとって日常生活又は社会生活を営む上で障壁となるような社会における事物、制度、慣行、観念その他一切のものをいう。
- 「発達支援」とは、発達障害者に対し、その心理機能の適正な発達を支援し、及び円滑な社会生活を促進するため行う個々の発達障害者の特性に対応した医療的、福祉的及び教育的援助をいう。

発達障害者支援法　基本理念

「第二条の二」

　発達障害者の支援は、全ての発達障害者が社会参加の機会が確保されること及びどこで誰と生活するかについての選択の機会が確保され、地域社会において他の人々と共生することを妨げられないことを旨として、行われなければならない。

- 発達障害者の支援は、社会的障壁の除去に資することを旨として、行われなければならない。
- 発達障害者の支援は、個々の発達障害者の性別、年齢、障害の状態及び生活の実態に応じて、かつ、医療、保健、福祉、教育、労働等に関する業務を行う関係機関及び民間団体相互の緊密な連携の下に、その意思決定の支援に配慮しつつ、切れ目なく行われなければならない。

代表的な発達障害①

自閉症スペクトラム（ASD）

- 社会性（対人関係）の困難感
- コミュニケーションの困難感
- イマジネーションの乏しさ
  （こだわりの強さ）

限局性学習症（SLD）

- 読む
- 書く
- 計算する

学習に関連する特定の能力に困難がある

代表的な発達障害②

注意欠陥多動症（ADHD）

- 注意の欠如
- 集中力の欠如
- 多動
- 衝動性の高さ

発達性協調運動症（DCD）

- 協調運動が苦手
- 不器用
- 運動が苦手と言われることが多い

発達障害の特徴

自閉症スペクトラム
ASD

限局性学習症
SLD

注意欠陥多動症
ADHD

発達性協調運動省
DCD

二次障害

　発達障害のような元からある障害をきっかけに、新たな障害が引き起こされた時、その障害を「二次障害」と呼ぶ。

発達障害は脳の機能障害であることからも、遺伝子や脳機能の脆弱性があると考えられる。あわせて幼いころから特性が発現しているため、育てにくさから虐待されることも多く、心理的脆弱性も抱えやすい。こうした脆弱性から、発達障害には二次障害が多く起こる。

　パーソナリティ障害や不安障害、気分障害の割合が高い。

新たな捉え方

- 発達障害とは「脳の個性」、「脳の多様性（ニューロダイバーシティ」である。
- 発達障害は生まれつきのものである。ポジティブに表現すれば「脳の個性」ということもできるが、個性なので「治る」ということはないし、基本的な特性は変わることはない。
- 発達障害は病気ではなく、脳の個性であり、特性である。
- ポイントは「本人が日常生活において困難や障害を感じるかどうか」

2.発達障害の子どもの早期療育とは？

早期療育の意義

子どもが場面や状況に応じた適応行動をうまく取れないことによって起きる問題の予防や改善

行動を変える＝体験を変える

行動を変えるとは？　大人の側から見た世界を変える

体験を変えるとは？　子どもの生きている世界を変える

人への気持ちを育てる

◆視線を合わせることを学ぶ

◆指さしで要求することを学ぶ

◆名前で振り向くことを学ぶ

人とのかかわりを育てる

◆いっしょに遊ぶ楽しさを学ぶ

◆気持ちを伝えたいを学ぶ

◆人とのつながりを学ぶ

変化に適応する力を育てる

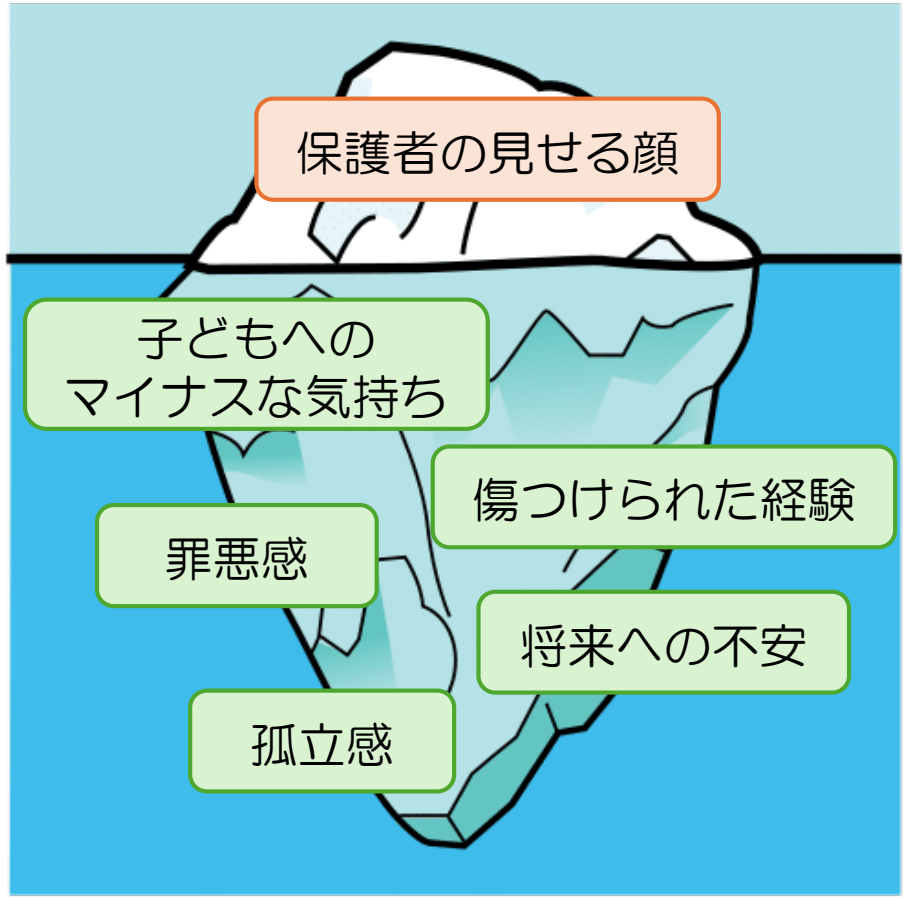
◆いつもとちがってもだいじょうぶを学ぶ

◆思い通りでなくてもOKを学ぶ

◆感覚の適切な入力を学ぶ

3.発達障害の
子どもの親支援とは？

保護者が見せる顔は氷山の一角



ペアレント・トレーニング

「精研式(まめの木式、奈良式)」

　米国でシンシア・ウィッタム博士がADHDの子どもをもつ家族向けに開発したプログラムを改良したプログラム。

子どもの行動を好ましい行動、好ましくない行動、許しがたい行動の3つにわけ、ほめ方などそれぞれに対する対応を学んでいく。

↓

ABA(応用行動分析）を基盤とした早期療育方法の一つ

ペアレント・トレーニングの基本

- 子どもの行動を3つに分ける
- 今できていることに注目する：注目名人になる
- 行動を観察する：観察名人＆原因名人になる
- 目標を考え環境を整える：環境名人になる

子どもの行動を3つに分ける

1.好ましい行動＝できている事

2.好ましくない行動＝まだうまくできないこと

3.危険な行動＝できればやめてほしいこと

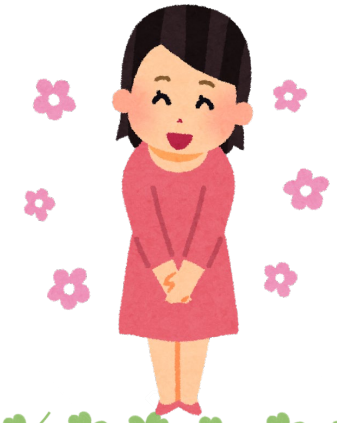
★「いいことに」に気づけると、<u>気持ちが楽に</u>

今できていることに注目する：注目名人

- 「いつも見てくれている人がいる」と感じてもらう
- 「うれしい注目」を伝える
- 「スキンシップをしながら」伝える
- 「伝わりやすく」伝える

<声のかけ方　４つのポイント>

- １割ルール
- 行動だけを短く言葉にする
- 間接的に褒める
- 感謝する



行動を観察する：観察名人＆原因名人

◆応用行動分析（ABA）を使おう！
子どもの行動を観察し、行動の理由を考えるための方法の一つ

A：きっかけとなる状況

おもちゃで遊んでいるときに「ご飯だよ」と呼ぶ

B：ある行動

5回くらい読んで片付ける

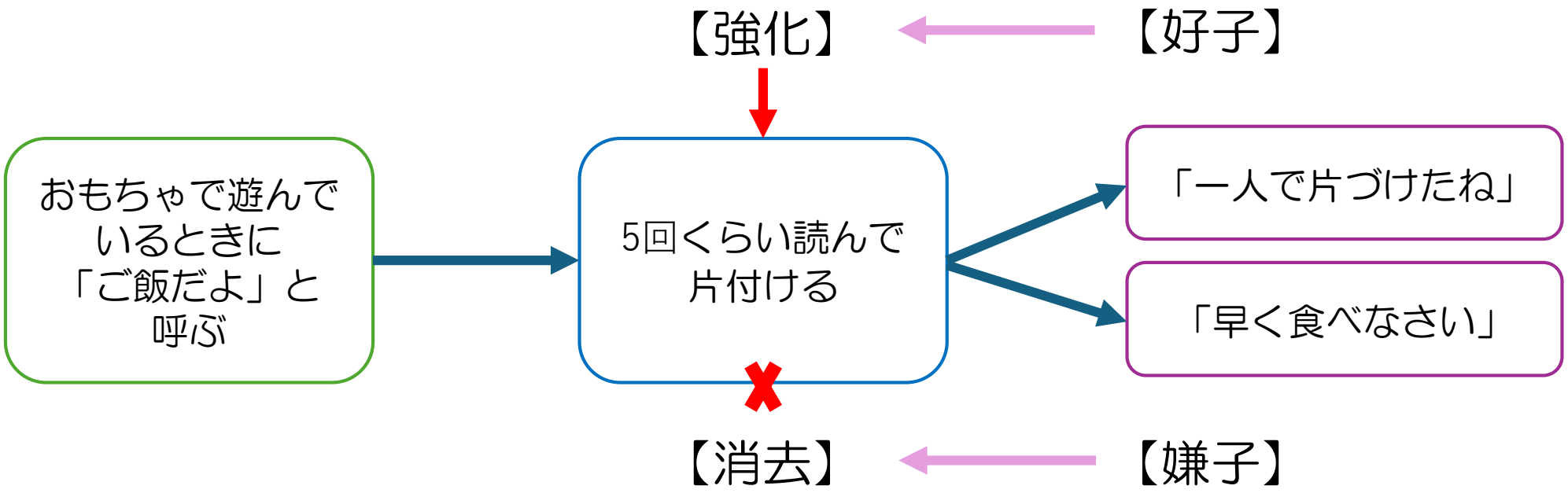
C：その行動の結果生まれる状況

「一人で片づけたね」

「早く食べなさい」

ABA：強化と消去

好子が増える、あるいは嫌子がなくなることでその前の「行動が増える」こと



好子がなくなる、あるいは嫌子が増えることで、その前の「行動が減る」こと

目標を考え環境を整える：環境名人

◆ABAでは行動を【個人と環境の相互作用】であると考えている。
◆子どもの視点に立って、環境を整える。

大人の視点		子どもの視点
指示が聞けない	→	今やりたくないことを指示される
ほかの子とかかわらない	→	一人で遊ぶ方が安心できる
落ち着きがない	→	気になる刺激がいっぱいある
パニックを起こす	→	何をしていいかわからなくて不安
外に出ていく	→	先生やみんなの注目が浴びられる

行動目標の立て方

- 「肯定的な注目」になるように立てる

「否定的」な注目の目標	「肯定的」な注目の目標
友達をたたかない	仲よく遊ぶ
おもちゃをとらない	「かして」という
ご飯のときに歩かない	座ってたべる

- 「代わりにしてほしい行動」のために環境を整える
- 環境調整は試行錯誤しながらで大丈夫。子どもの視点に立ち「その環境が子どもにとってわかりやすいかどうか」が大事。
- 「あなたのその行動を見ていたよ」と伝える。
- 声掛けの4つのポイントを忘れずに。

地域とつながり一歩を踏み出す

- 発達障害の行動特性は多くの場合、家庭では育てにくさにつながり、さらには子どもの将来への不安につながる。また、集団の場であればかかわりにくさという形であらわれる。
- 発達障害であろうとなかろうと子どもたち自身が、人とのかかわりを望んでいないわけではない。
- 私たちに必要なまなざしは、子どもの変化を子どもと一緒に喜び、そのうれしさを子どもと一緒に共有する事ではないか。
- 一人で悩まず、地域の力も借りて、子どもたちの明るい未来を信じて日々の喜びを共有することが、子どもが新し世界に安心して一歩踏み出し、適応行動を身に着けていってくれることにつながる。

参考文献

- 黒坂真由子　「発達障害大全」日経BP　2023年
- 北川明　「発達障害の基礎知識」　看護展望
  メヂカルフレンド社　2023年10月号ｐ10-13
- 上野良樹　「発達障害の早期療育とペアレント・トレーニング」
  ぶどう社　2021年